

法雲寺報

法雲寺
2013/1/1発行
兵庫県美方郡香美
町村岡区村岡2 3
6 5

本年もよろしく
お願い致します

平成二十五年は巳年。巳と言
うとその姿から余り好まれませ
んが、

* 生命力に富み忍耐強く、脱
皮を繰り返して成長する。

* 蛇は目を常に開けているの
で鏡と通じる。(鱗は有るが
透明で見えない)

* 足が無く身体をくねらせ蛇行
して進むが、後ずさりしない。
(後退が下手)

等の事から古来よりヤマタノ
オロチに代表されるように畏怖



後退せずゆっくり先進

されたり、逆に神の使いとして
信仰の対象として神聖視されて
きました。(蛇足ですがお正月
の鏡餅は蛇がトグロを巻いてい
る姿を模したものだと言いつ説もあ
ります。)

是非とも、平成二十五年はそ
の干支にあやかっつて、辛抱強く
脱皮を繰り返しながらも徐々に
前進できる年となればと思つ次
第です。

巳年の護本尊は

『普賢菩薩』

巳年の護り本尊は「普賢菩薩」。
普賢菩薩はその名が示すように
「普く賢い者」であり、世の中
のあらゆる所に現れては、智慧
と慈悲で人々を導く賢者と言
います。

山名蔵展示品の中に一軸の美



「普賢菩薩」



人画があります。

円山応挙が描いたこの絵は、
白象にゆつたりと腰を下ろした
遊女風の女性が手にした文に目
を落としている図柄です。

江口という能の一場面を写し
たもので、江戸時代には画家が
好んで描いた名場面らしいです。

文殊菩薩の乗り物は獅子です
が、普賢菩薩は象です。白象に
腰掛ける遊女は、実は普賢菩薩
の化身した姿という事のように
です。

巳年の本年はこの絵を皆さん
の良く拝んで頂けるように展示
を工夫したいと思ひますので、
機会があればご参観ください。

能「江口」の粗筋は...

諸国遊行の僧が江口の里を訪ね
た折、西行法師が江口の君に一夜
の宿を断られた事を思い出し、西
行の詠んだ歌を口ずさんだ。
すると江口の君の幽霊が現れ、
遊女の宿に出家の身の西行法師が
立ち寄らないよう諫めたのだと言
い消え去った。

夜、僧が江口の君の霊を甲う
と、再び江口の君が現れ、他の遊
女と三人で月光照らす川面で舟遊
びを始めた。江口の君は歌舞に
よって人身の儂さとこの世の無常
を僧に説き語りながら美しく舞つ
た。

やがてその姿は普賢菩薩と変
じ、舟は白象となり、西方浄土の
空へ去って行く。

但馬七花寺ご報告

H24年5月に開創なった但馬七花寺霊場ですが、1年目のシーズンが終わりしました。

法雲寺の課題であった「メインの花」である「酔芙蓉」も9月下旬からチラホラと咲き始め、11月下旬までの約2ヶ月間、木を変え、場所を変えて息長く咲き続けてくれました。

酔芙蓉が咲き始めるとさぞかし「参拝客も増えて対応が大変では」と心配をしたのですが、心配は無用。それまで週20〜30人あった参拝者も秋になるとパタッと途絶え、まったく思惑外れでした。まだまだ、「但馬七花寺霊場」の認知度の低さを痛感した次第です。

H25年は挿し木で花をもっと増やし、但馬七花寺の名を汚さぬよう取り組んで行きたいと思っています。



法雲寺の酔芙蓉

山名会再興総会

以前、法雲寺に事務局を置いていた「全国山名氏一族会」。H10年頃に、事務局を東京に移し活動を継続していただのですが、一族会役員の高齢化が進み、その新旧交代が整わぬまま、会的首脳が相次いで他界されてH15頃から活動不能な状態となっていました。このままだと数年もすれば山名会の存在すら忘れ去られてしまいます。

そこで、山名会を大切に思っ頂ける会員数名の方と連絡を取り合い山名会の再活動に向けた総会を10月京都で開催いたしました。

再興総会には、東は茨城・西は広島から30名の山名氏所縁の皆様



山名禅高公御廟前で
若い方々の参加もあり心強かった

さんが御参加頂き、山名会再興に関する協議を行い参加者の総意を持ちまして山名会復興の賛同を頂きました。

今後、新生「山名会」として息の長い活動を目指して行きたいと思えます。

但馬方面で山名会の会合など計画が有る際には皆様ご協力宜しくお願いいたします。

また、お知り合いの方に山名氏所縁のお方(八木・田結庄・垣屋・太田垣・その他家臣団等)が御座いましたら、是非とも山名会への入会をお勧め下さい。

山名氏の独自性

今回の総会ではテーマを「山名氏の独自性」とし、数多くある武門の家系と山名氏は何が異なるかを検証いたしました。

H24の大河ドラマは「平清盛」でしたが、山名氏が歴史上名を広めたのは、清盛と敵対する頼朝が挙兵した源平合戦・鎌倉幕府成立がそのスタートです。

以降、山名氏は鎌倉・室町時代では幕府の要職を担い、戦国時代には但馬宗家が滅びる中、苦勞の末、名を繋ぎ、江戸時代は幕臣としての務めを果たし、明治・現代まで、連綿として名を繋いでいます。

鎌倉幕府を武家政治の始まりで、明治維新を武家政治の終焉と位置付けるならば、武家政治の誕

生から終焉までを見届けた唯一の武門と言つことが出来ます。このことは史実であり紛れもない事実です。山名氏は正に清和源氏の名流中の名流なのです。山名氏を語る時に忘れてはならない重要な点を深く認識出来た今回の総会でした。